

令和2年度 生涯学習・社会教育関係職員研修事業パワーアップセミナー【概論編】
実施報告書（HP版）

- 開催日時 令和2年9月3日（木） 10:00～16:00
- 会場 遊学館（山形市緑町1丁目 2-36）
- 対象 市町村社会教育・生涯学習関係職員（公民館職員・コミュニティセンター職員含む）のうち、経験年数が2年未満の初任者
- 講師 安藤 耕己 氏（山形大学地域教育文化学部 教授）
皆川 雅仁 氏（秋田県生涯学習センター 主幹（兼）学習事業班長）
菅原 吉利 氏（山形県教育庁生涯教育・学習振興課 社会教育専門員）
- 出席者数 申込者93名中86名出席（出席率92.5%）
- 内容

	◇受付（9:30～9:55）	◇開講式（10:00～10:05）
10:05～11:35	◆講義①「生涯学習・社会教育とは」「これからの生涯学習・社会教育のトピック」 （講師：山形大学地域教育文化学部教授 安藤耕己氏） *生涯学習の理念や社会教育の役割、令和2年度以降の生涯学習・社会教育行政の動向など職務に必要な基本的な知識や考え方を学ぶ。	
11:35～11:40	休憩（講話講師準備）	
11:40～12:05	◆講話「令和2年度 県社会教育・生涯学習行政施策概要と新任職員に期待すること」 （講師：山形県教育庁生涯教育・学習振興課 社会教育専門員 菅原吉利氏） *山形県の生涯学習・社会教育行政の動向を知るとともに、生涯学習・社会教育関係職員としての役割について考える。	
12:05～13:10	事務連絡・昼食休憩	
13:10～14:30	◆模擬熟議「地域の持続可能性を高めるためには、どんな地域になったら…」 （講師：秋田県生涯学習センター 主幹（兼）学習事業班長 皆川雅仁氏） *熟議体験を通して、目標を共有することの意味やその重要性を認識したり、課題解決策を導き出す手法としての熟議の有効性について学んだりすることにより、多様な主体との連携・協働を主導する社会教育関係職員としてのスキルアップを図る。	
14:30～14:45	休憩	
14:45～15:45	◆講義②「生涯学習・社会教育に関する事務事業の作り方」 （講師：秋田県生涯学習センター 主幹（兼）学習事業班長 皆川雅仁氏） *生涯学習・社会教育分野の事務事業立案にあたり、押さえておきたい考え方と有効と思われるプロセス、多様な主体との連携・協働の視点などを知り、実際の予算要求時に有効なノウハウについて学ぶ。	
15:45～16:00	質疑応答・諸連絡・アンケート記入	16:00 終了

- 主催 公益財団法人山形県生涯学習文化財団 山形県教育委員会

□当日の様子

◆講義①

「生涯学習・社会教育とは」

「これからの生涯学習・社会教育のトピック」

午前中は講師の安藤氏より、生涯学習・社会教育の基本について、教育基本法や社会教育法の条文、生涯学習社会の概念などを図やスライドを用いてご講義いただきました。



参加者の声

- ・社会教育や生涯教育の全体像が把握し易く、さらに変遷についても知るきっかけとなったため、大変有意義な講義でした。
- ・生涯学習・社会教育の定義や歴史的变化について、これまで知らなかったことを知ることができた。先生の考え方に本所の業務を照らしながら話をお聞きした。
- ・来年度以降実施する地域学校協働活動の方向性を決めるに当たり、参考になる話をたくさん聞いて、とても良かった。

◆講話

「令和2年度県社会教育・生涯学習行政施策概要と
新任職員に期待すること」

講師の菅原社会教育専門員より、今年度の山形県の社会教育・生涯学習行政施策概要についての説明や、新任職員へのメッセージをいただきました。



参加者の声

- ・県の方針を掘り下げて、各自治体でどうあるべきか考える必要があると感じた。
- ・“オープンマインド”という言葉を自分も大切にしようと思います。
- ・普段やっている（取り組んでいる）事業や業務について、再確認できた。
- ・県の施策が一覧にしてあり、わかりやすかった。 ・直接職務に役立てると感じた。
- ・新任職員の立場に立った講義内容であり、非常に参考にし易かった。

◆模擬熟議「地域の持続可能性を高めるためには、どんな地域になったら…」

社会教育・生涯学習事業を実施するにあたり、既存事業等をただやるのではなく、職場内や地域住民も踏まえて事業について熟慮して議論し（熟議）、それを事業に反映させていくことの意義について実践を踏まえてご説明いただいたあと、実際に「人間力とは」「山形らしさとは」「一人ひとりが人間力に満ちあふれ、山形らしさが輝く地域になるためには何が必要か」の3テーマについて熟議を行いました。



皆川氏の模擬熟議説明の様子



受講生の様子



午後 模擬熟議の様子①



午後 模擬熟議の様子②



午後 模擬熟議の様子③



午後 模擬熟議まとめの様子

参加者の声

- ・熟議手法を用いてのテーマ解決の仕方が大変参考になりました。
- ・皆さんの意見が段々とまとまって来るのを実感できたのが良かった。
- ・若い方々が地元のことをよく理解し、地域の良さを認識していることに驚きました。
- ・問題点の洗い出し、目標設定への合意形成など大変学ぶことが多かったです。
- ・熟議という方法を知り、是非、地域での会議等でも活用したいと思います。
- ・自ら意見を出す、他の方の意見に耳を傾けることが、普段の業務では少なくなっていたため、とても新鮮でよかった。

◆講義②「生涯学習・社会教育に関する事務事業の作り方」

最後の講義では、社会教育の喫緊の課題や事務事業を立ち上げ・実施するために有効な手法（※LR-DC マネジメントサイクル）、事務事業の実例などについて、模擬熟議で実践したことを踏まえながらご講義いただきました。

※LR-DC マネジメントサイクル：Look（意識的に見る）・Reform（改良する）・Do（実施する）・Connect（つながる）

参加者の声

- ・先生からの問いかけが多く、ひきつけられるようなお話だった。
- ・考え方の道筋が見えました。まわりの人を巻き込んで熟議することは時間的にも労力的にも大変だと思いましたが、スタートの熟議が一番大切だと思うので、頑張りたいと思いました。
- ・圧倒されながらお聞きしたが、「地域の要請」か否かの視点の大切さがよくわかりました。
- ・LR-DC マネジメントサイクルについてもう少し学び、実感をもてるよう取り組んでみたい。
- ・先生の実践・成果に基づいたお話、説得力がありました。先生のパワーが社会教育には必要！